

○基本情報

記載日

平成28年2月15日

団体名	神戸新交通株式会社	所管局名	住宅都市局
設立目的	海上都市ポートアイランド、六甲アイランドと市街地の主要ターミナルを新交通システムで結ぶことによって、増大する都市交通需要に対処し、市民の利便を確保するため、ポートアイランド線、六甲アイランド線を運営することを目的とする。		

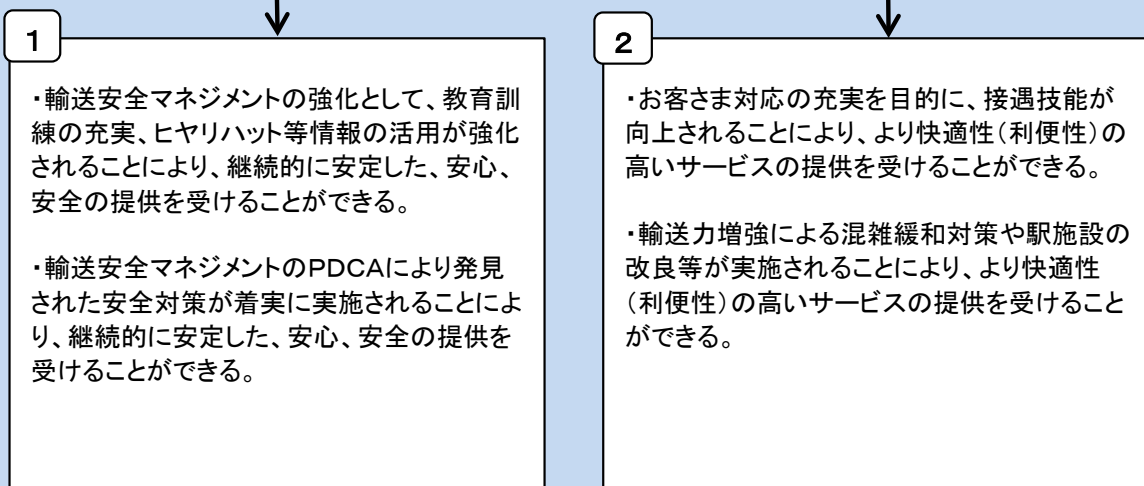
M

市が団体に求めるミッション / Mission

長期	神戸市総合基本計画における総合交通体系の一端を担い、市民の交通の利便を確保し、市街地とポートアイランド・六甲アイランドを結ぶ主要な公共交通機関として、住民及び企業従事者、学生、神戸空港等の施設利用者など、お客さまの交通移動手段としての役割を担う。
5年	<p>1. 安心・安全の提供 お客さまの安全輸送及び定時運行に万全を期するとともに、あらゆるトラブルに迅速に対応できるよう、更なる技術向上を目指すこと。</p> <p>2. 快適性(利便性)の向上 お客さまの快適性・利便性向上のための取り組みを推進すること。</p> <p>長期的な安定を図りつつ、上記1. 2に取り組んでいくこと。</p>

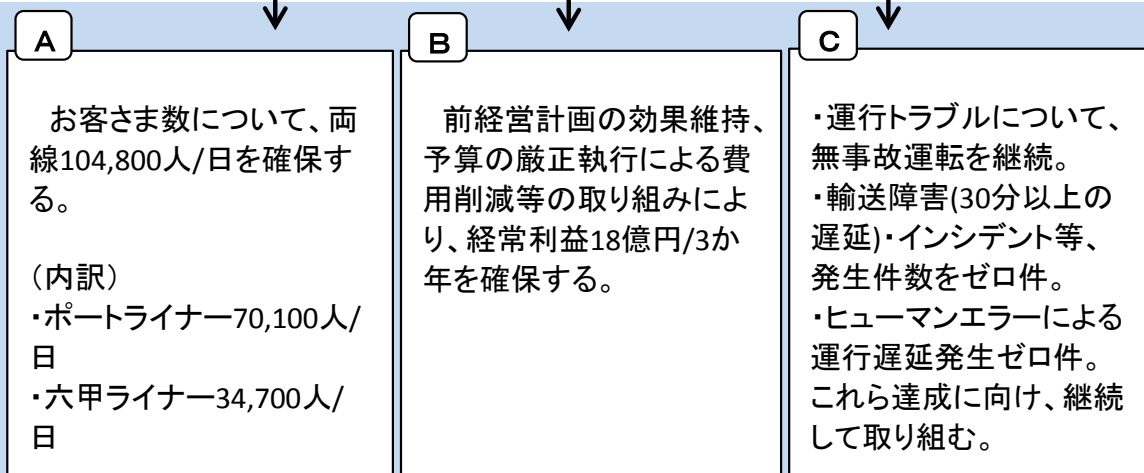
V

市民に提供する価値 / Value



T



事業目標 / Target



平成29年度 ミッションの達成評価シート1 [1次評価]

		記載日	平成30年8月31日
団体名	神戸新交通株式会社	所管局名	住宅都市局

○団体による自己評価[1次評価]

事業No.	1. 2-A	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号: 1)
H29事業目標	お客さま数の確保: 両線あわせて、104,800人/日 (内訳: ポートライナー70,100人/日、六甲ライナー34,700人/日)		
H29実績評価	(実績) H28年度: 109,213人/日(ポートライナー73,408人/日、六甲ライナー35,805人/日) H29年度のお客さま数は、両線で112,124人/日(目標比107.0%)であった。内訳として、ポートライナーでは、ポートアイランドへの島内企業従事者や学生数の増、神戸開港150年記念に伴うイベントの開催、神戸空港の搭乗者数増などにより、75,769人/日(目標比108.1%)、六甲ライナーでは、新築マンションへの入居による島内居住者や学生数の増などにより、36,356人/日(目標比104.8%)であった。 ポートライナーでは、三宮とポートアイランド、神戸空港へのアクセスとして、又、六甲ライナーでは市街地と六甲アイランドを結ぶ通勤・通学の主要な交通手段として、その役割を果たしている。		評価
			 S A B C
H30事業目標	H28年度からH30年度までの3カ年を実施期間とする新たな中期経営計画を策定し、取り組みを進めている。H29年度以降の目標は次の通り。 お客さま数の確保: 両線あわせて104,800人/日 (ポートライナー70,100人/日、六甲ライナー34,700人/日)		
評価担当者	安全管理・調整担当課長 長井 透		
事業No.	1. 2-B	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号: 1・2)
H29事業目標	経常利益: 18億円/3カ年(収支予測に収益力強化に伴う+2億円を含む) (計画)H28: 4.1億円、H29: 4.5億円、H30: 7.0億円		
H29実績評価	(実績)H28: 9.2億円 H29年度は、両線でのお客さま数の増加に伴う運輸収入の伸びに加え、予算の厳正執行に伴う経費削減等に取り組んだことにより、経常利益は10.6億円(計画比235.6%)となった。 安全面では、安全性維持のための信号・通信設備の更新など安全関連設備投資を積極的に行った。 営業面では、お客さまの利便性の向上を図るため、貿易センター駅構内にエレベーター及び多機能トイレを新設し、マリナーパーク駅のお客さま用トイレをバリアフリー対応の多機能化へと改修した。		評価
			 S A B C
H30事業目標	お客さまサービス向上施策として、ポートライナーでは扉付近の混雑緩和を目的とした2000形車両2次車の各車両の固定座席の一部を跳ね上げ式座席に変更する改造工事を順次実施して行く。また、市民広場駅構内のトイレスペースの拡張及びバリアフリー対応の多機能化への改修を予定している。六甲ライナーでは、新型車両1編成の営業運転開始を予定している。 ポートライナーは開業後38年目に、六甲ライナーは29年目になり、施設・設備の劣化・老朽化が進んでいる。今後も安全運行を継続するために経営の安定化に努め、計画的な更新・補修を行っていく。		
評価担当者	安全管理・調整担当課長 長井 透		

平成29年度 ミッションの達成評価シート1 [1次評価]

		記載日	平成30年8月31日
団体名	神戸新交通株式会社	所管局名	住宅都市局

○団体による自己評価[1次評価]

事業No.	1. 2-C	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号: 1)
H29事業目標	<p>運行トラブル ①無事故運転: 継続、②輸送障害発生: ゼロ件、③ヒューマンエラーによる運行遅延発生: ゼロ件</p>		
H29実績評価	(実績)H28: ①継続、②1件、③5件		評価
	<p>H29年度は、無事故運転こそは継続しているものの、輸送障害発生件数は3件、運行遅延発生件数は2件となった。 輸送障害では、ポートライナーにおいて、ブレーキ装置の不具合や主制御装置の故障により途中駅で運転を中止した。六甲ライナーにおいては、非常口扉の状態を監視するリミットスイッチの接点不良により、住吉駅到着後の下り列車運用を中止した。これらトラブルによりお客さまにご迷惑をおかけした。又、ヒューマンエラーに起因する運行遅延が2件発生するなど、目標を達成できなかった。 引き続き、お客さまの安全輸送及び定時運行の実現に向け、安全対策及び教育訓練を強化し、お客さまからの信頼を獲得するとともに、公共交通機関としての役割を果たしていく。</p>		S A B C
H30事業目標	<p>H28年度からH30年度までの3カ年を実施期間とする新たな中期経営計画を策定し、取り組みを進めている。30年度の目標は、28・29年度と同じ。</p>		
評価担当者	安全管理・調整担当課長 長井 透		

平成29年度 ミッションの達成評価シート2 [2次評価]

		記載日	平成30年9月5日
団体名	神戸新交通株式会社	所管局名	住宅都市局

○所管局による総合評価(ミッションの達成評価)[2次評価]

コメント	<p>【ミッション毎の評価】</p> <p>1 安心・安全の提供 ……評価 B (上記評価の理由) 無事故運転は継続しているが、輸送障害・運行遅延が生じたため。</p> <p>2 快適性(利便性)の向上 ……評価 S (上記評価の理由) 輸送障害・運行遅延によりお客様に迷惑がかかる事案が生じた一方で、快適性(利便性)の向上に資する設備投資に積極的に取り組み、利用者増に伴う収入増や経費の削減により経常利益は目標を大きく上回っているため。</p> <p>【総合評価の理由】 未達成のミッションもあるものの、それを補完すべく、安全関連設備の投資を行っている。また、お客様の利便性の向上などにも取り組んでいる。 以上から総合評価Aとした。</p>	総合評価
		<p>S</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>
対応方法		
(総合評価がB又はCの場合には必ず記載)		
評価担当者	計画部公共交通課長 竹本 真也	